

全国協議会 ニュース

2010年12月1日発行
第222号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marow.or.jp/
E-mail:office@marow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

楽屋に溢れる連帯感 市川團十郎さんと共に



国立劇場の11月公演は「国性爺合戦」でした。学校の教科書にも載っていたので、ご存じの方も多いかも知れません。

主演の市川團十郎さんのご尽力で、今年も11月4日と9日に国立劇場から招待を受けました。今回はHPでも参加者を募集したところ、多くの方に応募いただき、抽選の結果、合計20名の皆さんに参加いただきました。

元氣になった患者さんご本人と闘病生活を支えたお母様や、骨髄提供の時に心配をかけたから……とドナー経験者とお母様がペアで参加くださった方もあり、「思わぬ親孝行が出来た」と喜んでいただきました。

出づっぱりの演目で終演後のお疲れのところ、楽屋にもお招きいただき、團十郎さんと直接お話することもできました。厳しい闘病生活を乗り越えた者同士、日頃の活動をご存じだからこそ解りあえる連帯感のようなものが楽屋を包んでいました。

團十郎さんの迫力ある舞台と元氣なお姿に、「更なる活力を

頂いた」と、皆さん目を輝かせていたのが印象的です。

今年もご招待くださいました国立劇場と、お話をすすめてくださいました團十郎さんに、深く感謝申し上げます。

なお、当日の様子は国立劇場のホームページにも掲載され、そこに当協議会のホームページも紹介されました。

参加された方を代表して2名の方から感想をいただきましたのでご紹介いたします。

◇中熊千香さん
「つ成田屋！ 團十郎さん、かつこい！」心の中で、思わず叫ぶ。石橋でポーズを決めた市川團十郎さんが舞台後方から、前面にセットごとせり出してくる四幕・紅流しの場。静謐の中、見られるようなカッコ良さ。いかにも重そうな衣裳を身にまとい、花道を跳びはね、腹の底から声を出す。

この方が2008年7月に骨髄移植をされたとは信じ難い。「ちよつと無理をして、その後ゆっくり休むのがよいようです」。終演後、お疲れにもかかわらず私たちが楽屋で迎え、おっしゃった。

一方、私は2004年4月に移植。未だ思い通りにならない体で、舞台を拝見する体力があるかどうか。本当に團十郎さんには不断の努力でここまで戻っていらしたのだろうか、と感じ入った。公演中、一足先に旅立った闘病仲間の妹分たちに心の中



親子ペアで観劇していただきました

「すごいよね！」と、語りかけ、時にせつなく、時に我が身の幸運をかみしめ、大いに励まをいただいた一日でした。

◇高野由美子さん
私にとって初めての歌舞伎鑑賞ということもあり、イヤホンガイドのお世話になりました。お陰さまで、より一層理解することが出来ました。

一言。感動でした。想像していた歌舞伎の世界より、はるかにスケールが大きくて、華やかで、目でも十分楽しむことが出来ました。團十郎さんの迫力にはすごい物を感じ、とても大病した方とは思えないほどの声量立ち居振る舞い素晴らしかったです。

初めての私にも十分に楽しむことができたので、もつともつとたくさんの方が團十郎さんから生きる力をもらえたらと思います。

このような貴重な経験を与えて頂き、本当にありがとうございました。

移植医療の正しい理解を求め、生命や健康の大切さを知ってもらうと10月24日に開催されたグリーンリボンランニングフェスティバル。今年も普及啓発活動の一環として参加しました。

過去2回は駅伝の部のみでしたが、今回はHPでも参加を呼びかけ、10km部門に8名、駅伝部門に1チームが参加しました。残暑の長かった今年ですが、この日はたまたま過ごしやすく、マラソンには適した天候でした。参加したランナーに感想をうかがいました。

◇10キロの部 斎藤あゆみさん
「駅伝の部 笹森ゆきのさん 当日は曇り空で少し寒いくらいでしたが、走るのにはちょうどよい気候でした。開会式に行われたバルーンセレモニーでは、ドナーさんへの感謝の気持ちを込めて風船を飛ばしました。風船と一緒に「ありがとう」の気持ちがあふいていくようでも、印象的でした。4名で走る駅伝は国立競技場の周りを

のぼりを背にたすきをかけて
国立競技場を激走
2010グリーンリボンランニングフェスティバル

普段は主人と2人で、たすきをつけて走っているのですが、事務局の方からこのお話をいただき、喜んで10キロの部に参加しました。

1人では心細いので、自分のブログでランナー募集を呼びかけ、4名の仲間が集まりました。福島のKさんを含め、5人の仲間たちが1つになり、6人そろってゴールすることができました。そして走ることに楽しさ、臓器提供や骨髄バンクの意義を改めて考えるいい機会となりました。

また来年、このメンバーで骨髄バンクのたすきをつけて走りたいと思っています。

HPリニューアル



全国協議会のホームページをリニューアルしました。デザインを一新し、綺麗で見やすいページになったと思います。

以前のホームページは、複数人での管理が難しかったのですが、今回のリニューアルによりそれも改善し、管理担当者としてうれしいかがりです。これまで滞っていた共催事業や輝き展の開催予定など、タイムリーな話題を更新していきたいと思

また新たなサービスとしてツイッターも導入いたしましたので、フォローもお願いいたします。

ブロックセミナー



九州 秋晴れの下、交流深まる

11月7日、九州大学百年講堂に九州ブロック6団体30名が集まり、22年度ブロックセミナーを開催しました。6団体が一堂に会したので、全国協議会の来年度役員選挙の説明と各地の活動報告も行い、地道で真摯な活動が行われている半面、ドナー登録の広報場所の確保や活動メンバーの増員が難しいなどの悩みも報告されました。

セミナーは、午前野村副会長を講師に「アメリカにおける造血細胞バンク事情」の説明が行われ、進んだ体制を勉強しました。

午後は九州大病院血液腫瘍内科の豊嶋崇徳先生から「末梢血幹細胞移植の現状と今後の展望」と題してご講演いただきました。映像で採取方法、メリットとリスク、移植件数の推移等を平明に説明していただき、昔の無菌室の様子が映し出される

つないだ後は爽快感でいっぱいでした。その後10キロに参加しているボランティアの方たちの応援に回りました。バンクチームで励ましあい、最後にみなさんが手をとってゴールした時、傍で見ていた私まで完走したような嬉しい気持ちになりました。来年は今より体力をつけて、また参加したいと思

と、当時は思い出した方の悲痛な声が聞かれました。講演終了後は活発な質問があり、関心の高さが感じられました。

(リボンの会 杉原)

東北 常識を越えた取り組みに
将来の大きな変化を予感

11月号でもご紹介いたしました「ハローキティ・シールカレンダー」

1年のシメの骨髄バンク啓発活動として、また新年の活動始めに、骨髄バンクオリジナルシールカレンダーをぜひご利用ください。

※カレンダーと一緒に振込用紙を送ります。(料金後払い)在庫無くなり次第終了。ご注文はお早めに!

初日が3つの講演で、最初に「T細胞非除去HLA半合致造血幹細胞移植の可能性」と題して福島県立医科大学附属病院の菊田敦先生に、2番目に虎の門病院の成田円さんが「患者さん・ご家族への新しいサポーター」移植コーディネーターのかかわり」と題して、そして3番目に同じ虎の門病院の谷口修一先生が「造血細胞移植の発展とドナーと年齢の壁を越えて」と題してそれぞれ講演を頂きました。

いずれの講演もこれまでの常識を超えた取り組みであり、造血細胞移植が確実に変わりつつあることを、そして将来の大きな変化を予感させるお話しでした。

2日目の午前中には全国協議会の野村副会長による「アメリカ造血細胞バンク事情今昔」と題してアメリカ視察報告がありました。

それぞれの先生方にはお忙しい中、講演を頂き、また初めて耳にする情報を沢山届けて頂きました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

私達東北のボランティアが明日からの活動に「元気」を頂いた2日間のセミナーであったことを報告致します。

(福島の会 陽田)

【問い合わせ】
地元の骨髄バンク支援団体・または「特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会」へ
〒160-0005 東京都新宿区愛住町23-1
woody21 9階
TEL 03-3356-8217
FAX 03-3356-8637
e-mail:office@marow.or.jp

2011年版
ハローキティ・シールカレンダー

年末年始のご挨拶にご活用ください

2011年版
ハローキティ・シールカレンダー

年末年始のご挨拶にご活用ください

心からのご寄付に 感謝申し上げます

10月21日～11月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ㈱	現金	500円
埼玉県立所沢北高校	現金	10,000円
徳島藍ライオンズクラブ	現金	5,000円
ライオンズクラブ国際協会330-A地区	現金	163,347円
青柳 年和	現金	1,000円
山田 康博	現金	9,880円
佐々木 和彦	現金	500,000円
SEIYU	現金	12,092円
仁左衛門吟亭大宮店	現金	7,715円
山田 康博	現金	9,880円
田中 美優	現金	5,000円
嶋津 佳子	現金	5,000円
飛田 行康	現金	10,000円
匿名 匿名	現金	5,000円
匿名 匿名	現金	3,000円
●白血病患者支援基金		
ブイチェーン中迎店	現金	3,348円
㈱千曲堂印刷	現金	3,080円
●佐藤さち子患者支援基金		
西村 八重子	現金	3,000,000円
樋口 勇一	現金	1,000円
㈱メディアタージ	現金	200,000円
川島 鉄平	現金	17,691円
	(敬称略)	

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会



10月17日、苫小牧の会設立20周年を記念し、苫小牧市文化交流センターで、ブルーコマツの三原綱木さんによる「ブルーシャントリーフォーエバーコンサート」を開催しました。開場と共に300名もの人々で席は埋まり、開演直前にはドナー登録用のビデオを上映し、当会の矢嶋会長から現在のドナー登録者数、ドナーが見つかる患者さんは6割程度であること、まだまだドナー登録者数が足りない現状を訴えました。

三原さんの登壇で会場の熱気は最高潮。演奏の合間のトーク

北海道苫小牧市
ブルーシャントリー大合唱
設立20周年記念コンサート

今月の 共催イベント

では当会の20年の長きの活動への労いと、会場の方々に「応援してください」の言葉、「ブルーコマツも骨髓バンクを応援していますので、何時でも声を掛けてください」とのコメントは主催者として大変嬉しく、励みとなりました。

フィナーレは、三原さんと地元のアマチュアバンド総出となり、会場全員での「ブルーシャントリー」の大合唱は圧巻でした。

また、12月25日には、若い人



コンサートの合間には、普及啓発のためにドナー体験や移植

また、12月25日には、若い人

たちを対象に、苫小牧市立啓明中学校吹奏楽部の創部20周年記念発表会と協賛します。

(高山)

千葉県我孫子市 久しぶりの サンクトコンサート

11月12日、千葉県我孫子市にて、サンクトフォーリアンピアノ三重奏団の皆さんによるチャリティコンサートを開催しました。千葉の会では、以前は毎年開催していましたが、しばらくご無沙汰だったので今回は久しぶりの復活です。

私は裏方であつたため、客席で演奏を聞くことは出来ませんでした。来場者130名のすべてが、ピアノ、チェロ、ヴァイオリンの珠玉の音色に包まれた会場の様子が、目に浮かびま

コンサートの合間には、普及啓発のためにドナー体験や移植体験を伝えるミニシンポジウム

さらには、千葉県赤十字血液センターとNECのスポーツチームである「レッドロケッツ」「グリーンロケッツ」が協力して作った献血とドナー登録を呼びかけるポスターのプレスリリースも行われました。

来場者の数を考えると普及啓発イベントとしても大きな効果があつたのではないかと思います。また、当日はケールレレの取材もあつたため、放映による2次の普及啓発も期待できます。どのように放送されるか、今後の楽しみですね。

久々の開催とあり、弊会メンバーが懐かしい再会を果たすシーンも散見され、活動歴の浅い私には、ボランティア活動の重みを感じることでできた一日でもありました。

(野平)



「風のかたち」上映

北海道釧路市
「風のかたち」上映
15周年の節目に
決意を新たに

11月13日、釧路骨髓バンク推進協会設立15周年を記念して、映画「風のかたち」上映会を、全国協議会の共催事業として開催しました。

上映に先立ち、幸色の黄色いレシートでご支援頂いた株式会社北海道イオンの2店舗とご来店の皆様、チャリティコンサートにご出演くださったチェリストの土田英順さん、ピアノの矢崎由佳さんに感謝状を贈呈させて頂き、土田さんのミニコンサートを開催しました。欲張りすぎた内容でしたが、会場には200人あまりのお客様においでいただき、静かな感動の中間無事終了することが出来ました。

今回のイベントで来賓としてご挨拶頂いた釧路市の副市長さんが提供経験者とわかり、これもまた一つの感動的な偶然でした。15周年といってもまだまだ移植を待っている患者さんがいらっしゃいますし、活動を継続させなければいけないと、会員一同決意を新たにしたのでした。

(小川)

青森県弘前市 第9回市民公開講座 みんなに届け「生の声」

11月13日、弘前大学創立50周年記念会館において、第9回市民公開講座「骨髄移植を知ろう」



患者会まろもろ写真で活動報告

を開催しました。毎年2回、実行委員会を組織して、血液疾患の現状や治療法、ドナーさんや骨髄移植経験者による体験談などを組み込んだ内容で、市民の皆さんが骨髄移植に関心と理解を深めることを目的とした講座です。ドナー体験者の女性3人と移植コーディネーターによる骨髄提供に至ったトークや、移植体験者のプロスノーボーダー荒井「daze」善正さんによる

東京都港区 ドナーに感謝！ 東京の会20周年 チャリティイベント

11月20日、田町交通ビル6階ホールで、東京の会設立20周年記念イベント「決断！命の一滴」が開催されました。8年前にテレビ放映されたNHK「プロジェクトX 決断！命の一滴」を上映後、大谷貴子さんが母親からの骨髄移植を経て生還した体験、骨髄バンク設立までの道のりなどを当事者としての思いを込めながら語りました。

女優の原千晶さんはテレビドラマで大谷さんのお姉さん役

る、病気に立ち向った骨髄移植までの患者の「生の声」が、会場の参加者の心に深く響いたことと思います。また、「いのちのりレーコンサート」では、青森山田中学高等学校吹奏楽研究会による演奏が、会場を盛り上げていました。

(柴谷)

大谷会長



走る

10月26日、埼玉県春日部市立大沼中学校の「ふれあい講演会」の講師として大谷会長が招かれました。生徒さんから、大谷会長の講演への感想をお寄せいただきましたので、ご紹介します。

初めはあまり興味がなくて、下を向いていたけど、耳から入ってくる大谷さんの声にいつのまにか聞き入っている自分がいました。血液の病気の重さは以前、調べたことがあるので、聞いていられるうちに涙が出そうになって、なんとか我慢しました。人の役に立つことって難しいけれど、大人になるにつれて、少しずつ役に立っているかなと思うと、生きていたいと思います。朝の「おはよう」が幸せに思える事ってすごいなと思いました。私もこれから、家族・友達を大切に、自分の命を大切にしたいと思いました。

(中学1年・女子)

(中学2年・女子)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●ACジャパン広告キャンペーンの再開について
平成20年6月で中断しているACジャパン(旧公共広告機構)の広告キャンペーンが、来年の7月から3年ぶりに再開されることが決定しました。テレビ・ラジオCMや駅貼り広告など皆さんの目につく機会が多いことから、骨髄バンク事業の知名度向上に大きな力となります。

骨髄バンクの新規ドナー登録者数は平成17年度をピークに減少傾向にありましたが、本年度はこれまで(4月～10月)22,564名の登録があり、昨年同期に比べ1,900名余りの増加となっています。来年度の再開により、一層のドナー登録者拡大が期待されます。

●説明員研修会&チャンス・グラビア・DVDの改訂について
11月3日の東京を皮切りに12月4日の仙台まで、全国7地区で説明員研修会が開催されています。今年は、限定的にはありますが10月からコーディネートが開始されている、非血縁者間末梢血幹細胞移植(PBSCT)を中心にした内容となっています。また、非血縁者間PBSCTの導入に伴って、パンフレット(チャンス)、グラビア、登録用DVDの改訂作業を行っています。来年の1月から新しい資料によるドナー登録会等での説明が始まります。

●10月の骨髄バンク推進月間について
今年も全国各地でドナー登録会やチャリティキャンペーン等、数多くのイベントが開催された他、政府広報番組等、テレビやラジオでも骨髄バンクが紹介されました。この結果、10月にご登録いただいた方は昨年を上回る4,497名となりました。

骨髄バンク NOW

●「最初の評議員の選定方法」について
公益法人制度改革における「最初の評議員の選定方法」に関しては、規定により、現主務官庁の認可が必要とされています。最初の評議員の選任は評議員選定委員会を設置して選任する旨で厚生労働大臣宛に認可申請を行い、10月19日付で認可を得ました。

●PBSCTの導入に備えた寄附行為の変更手続きについて
非血縁者間の末梢血幹細胞移植の導入に伴う寄附行為の改正については、臨時理事会・評議員会の後、厚生労働大臣宛に変更認可申請を行い、10月18日に認可を得て、10月19日に登記が無事完了しました。

◆日本骨髄バンクの現状(平成22年9月末現在)

	9月	10月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,033	4,497	372,433	481,785
患者登録者数	202	188	2,813	31,393
骨髄移植例数	102	120	-	12,324
20歳未満ドナー登録者	-	333	13,645 ¹⁾	-
51歳以上ドナー	238 ²⁾	163 ³⁾	20,312 ⁴⁾	-

■10月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／1,270人、献血併行型集団登録会／2,754人、集団登録会／321人、その他／152人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
1) 17年3月～ 2) 51歳以上ドナーの延長数 3) 51歳以上ドナーの新規登録数
4) 17年9月～

を演じた関係で友情出演して下さり、自身の子宮がん闘病の体験と予防の大切さを涙ながらに訴えました。骨髄移植を受けて元気になったプロスノーボーダー荒井「daze」善正さんと宮城じゅんさんも舞台上上がって、闘病の体験談を語ってくれました。「自分たちが生きてここにいるのもドナーさんのおかげです！」骨髄バンクとドナーさんに感謝の一日でした。

(若木)

